

## 1 学校教育目標

なんでもがんばる東綾瀬 ～自らの伸びや高まりを実感できる学校～

○ すすんで学ぶ子      ○ 助け合う子      ○ 体をきたえる子

## 2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 子供が学ぶ喜び、友達とかかわり合う喜びを味わえる楽しい学校</li> <li>○ 教職員が一体となって子供の育ちを支え、その成長を共に喜び合える学校</li> <li>○ 保護者が我が子を通わせてよかったと実感でき、地域からも信頼される学校</li> </ul>
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 話をしっかりと聞き、主体的に学び、自分の考えや思いを表現できる児童</li> <li>○ 互いの違いとよさを認め、仲良く助け合い、協力し合って活動できる児童</li> <li>○ すすんで体を動かし、心身共に健康で自分のめあての実現を目指して努力できる児童</li> </ul>
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童に敬愛され、保護者・地域からも信頼される教師</li> <li>○ 児童に求めることは、自らも率先垂範する自己に厳しい教師</li> <li>○ 学校に求められる課題を主体的に受け止め、経営参画意識をもって取り組む教師</li> </ul>

## 3 学校の現状及び前年度の成果と課題

### (1) 学校の現状

#### ① 児童

明るく素直な児童が多い。前向きに何事にも取り組もうとする積極性が見られる。学習に対しても真面目に取り組み、各学力調査では概ね平均を上回ることができていると考える。一方で、学習における個々の能力差や生活指導の規律徹底、また豊かな心の育成や誰にでも公平に接する態度などには、継続した指導が必要である。コミュニケーションに課題のある児童に対し教職員全体で対応し、必要な児童には介助員を配置している。緊急時には校内体制をとることも多々あり、学校全体として組織的対応を続けていくことが、継続的課題であり目標である。

#### ② 教師

児童理解に努め、厳しさと愛情をもって児童に接している。校長の学校経営方針を理解し、その実現のために努力しており、よりよい授業を目指して日常の教材研究にも熱心に取り組んでいる。全ての教師が一枚岩となって共通行動を行っていくことを継続して啓発し、これからも保護者や地域の方々の信頼をより高めていく必要がある。また特に若手教員は、教員としてのスキルに関する基礎基本をしっかりと身に付けさせることが必要である。

#### ③ 保護者・地域

地域の方々も学校創立から携わっている方も多く学校に対する思いは熱い。地域と学校を結び付けて子供たちの健全育成を考えている方が多い。保護者の学校行事等への参加・協力も積極的である。潜在する保護者や地域の思いや願いにも耳を傾けつつ、学校経営に生かしていく。

### (2) 前年度の成果と課題

#### ① 学力向上

・足立スタンダードに基づく授業を積み重ね、基礎的・基本的な内容の定着を図ることができた。引き続き、AIドリル等も活用しつつ個に応じた指導を行う時間を確保し、基礎・基本の更なる定着に努める。

・「活用力向上ガイドライン」に基づく算数授業を展開し、思考力・判断力・表現力等の育成に努めた。この授業スタイルを他教科にも広げるとともに、新たな教育課題や教員各自の専門分野の研究を促し、指導力の向上に努める。

・パワーアップタイムや放課後補習の取組に工夫を重ね、全校体制で基礎的・基本的内容の定着に努めた。また、学習支援員やそだち指導員との連携を図り、個に応じた学習指導の効果的实施に努めた。

② 体力向上

・日常の体育学習の充実を図ることを柱として、運動遊びや運動の日常化を推進している。今後も外遊びの励行など遊びや運動の日常化を推進していくとともに、引き続き児童がスポーツに親しむ機会を確保していく。

③ 豊かな心の育成

・道徳授業、道徳教育の一層の推進を図る。週1時間の道徳の時間を充実させるとともに課題解決的な学習の中で豊かな心の成長を進める。

・教員の意識改革を進めるとともに組織的な生活指導体制を充実させることで、いじめ等の問題の早期発見・解決を実現に取り組むことができた。不登校傾向の児童や特別に支援の必要な児童への働きかけを継続し、状況の改善に努める。

④ 働き方改革

・行事の削減や会議の精選、C4thの活用等推進した結果、超過勤務や休日出勤は減少した。しかし月ごとの超過勤務時間45時間以内は達成できていない教員がまだ数名いる。引き続き校務分掌の弾力的な運用など改革が必要と考える。

## 4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R5	R6	R7	R8	R9
1	学力向上アクションプラン *【継続・新規】東綾瀬小 BAAP プランの実践	○	○	◎	◎	◎
2	豊かな心の育成	◎	◎	◎	◎	◎
3	体力向上	◎	◎	◎	◎	◎

## 5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン *【継続・新規】東綾瀬小 BAAP プランの実践			
A 今年度の成果目標	達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)	コメント・課題		達成度 ◎○△●
4月実施の足立区学力向上に関する総合調査結果の目標達成	区学力調査 通過率国語 86%算数 86%	通過率 国語 91.2 算数 91.0	8割を大きく超えることができた。学習の定着状況と具体的な取組は6(1)を参照		◎
B 目標実現に向けた取組み					

新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
継 続 ・ 新 規	Basic 基礎的・基本的な内容の定着	全学年 各教科  <b>授業の充実</b>	通年	足立スタンダード虎の巻に基づく授業を積み重ね、全校体制で基礎的・基本的内容の定着【指導体制】教員 講師・デジタル教科書をはじめICTを活用し、学習内容の確かな定着を図る。校内研修で教員のスキルアップを図る	授業観察、各種研究授業において年2回ICT活用した授業を公開	児童のアンケートでICTを使った授業が楽しいなど肯定的な意見が90%以上	隔月実施の児童アンケートでICTを使った授業が楽しいなど肯定的な意見が90%以上	肯定的な意見が90%以上。効果的に活用することができた。活用が効果的な学習場면을精査し、各教科共通の共有財産としたい。	◎
		全学年 基礎学力に課題のある児童	昼PU 放課後	【指導体制】全教員 ・主にAIドリルを活用した課題別学習指導	Assesmentにおけるスマイルテストで診断	対象児童の診断テストの正答率70%以上	・対象児童の正答率70%以上 ・昼PUを活用した実施状況の確認（観察及び面接、アンケート調査）	概ね計画通りに実施することができた。昼PU以外にも、課題が終わった児童が取り組む等の自主性も見られた。	◎
継 続 ・ 新 規	Appiication 思考力・判断力・表現力等の育成	全学年、 全教科	通年	各教科・領域で習得した基礎的・基本的な知識・技能を活用し、自ら設定した課題を解決する学習活動に取り組みさせる。	「Appiicationシート」を活用した授業構成及び授業観察における検証	「Appiicationシート」の各教科での活用 前期（試行段階）60～80% 後期終了100%	「Appiicationシート」の各教科での活用 前期（試行段階）60～80% 後期終了100%	各教科の授業の中で思考力・判断力・表現力等の育成を図る取り組みが見られたものの、授業前の準備段階でのシートの活用は不十分	△
	Assesment 学習指導の効果検証定着度テスト（新規：リベンジテスト）	全児童 国語 ・算数	9月、 11月、 1月の計3回	【指導体制】担任+学力評価委員会 ・国・算の学習の定着度の評価を行うために、長期休業前後で類似のテストを行い休業中の学習のめあてにする。	定着度テスト（9、11月、1月）前年度～4月調査で明確化された課題に焦点を当て行う。	2回目のテストは、1回目より、正答率を5%以上向上。最終的に正答率を80%以上にする。	2回目のテストは、1回目より、正答率向上。最終的に正答率は80%以上となる。	最終的な正答率を80%以上。概ね計画通りに実施することができた。	○

継続・新規	Power up ショートパワーアップタイム(SPU)朝読書	全児童	始業前朝読書 SPU 図書の時間	【指導体制】担任+図書館支援員+図書館ボランティア ・読書時間を確保し読書好きを育て読解力を高める。全校体制で基礎的基本的内容の定着を図る。	読書通帳 読書旬間の児童アンケート	年度末学校評価アンケートで意欲的に読書に取り組む80%以上	1.2.3年生は年間50冊以上 全児童アンケートで読書が好き90%以上	概ね計画通り実施することができた。今後は読書を通じて培った内容を「伝える」「拡げる」に繋げていきたい。	○
-------	-----------------------------------	-----	---------------------	---------------------------------------------------------------------------	----------------------	-------------------------------	----------------------------------------	-----------------------------------------------------	---

**重点的な取組事項－2** 豊かな心の育成

A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
「あいさつ・返事・靴そろえ」を基本とし、思いやりの心もち、助け合い、協力して活動できる子を育成し、いじめのない明るく楽しい学校作りを推進する。	○全教員が道徳科での校内授業を行う。自己評価8割以上。 ○自校アンケートにおける学校が楽しい及び児童の自己肯定感に関する項目について80%以上が肯定的と回答	校内研究を継続して行い研究授業を行い指導講評を受ける。自己評価8割以上。児童アンケートに改編し自己肯定感に関する項目について80%以上が肯定的と回答	研究テーマを改編し、個別最適な学びに迫る研究の積み上げができた。	◎

**B 目標実現に向けた取組み**

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
道徳教育と児童理解に基づいた生活指導体制の確立	○学校評価アンケートにおける目標項目に関する評価について肯定的評価95%以上 ○児童へのアンケート「思いやり、礼儀、規範意識」に関する項目についての肯定的評価90%以上	・毎週木曜に生活指導夕会を実施。児童情報を共有する ・SCの活用と諸機関との連携 ・GoogleFormを活用した「児童アンケートの実施とQUからの分析、結果に対する迅速対応 ・特別な教科道徳の授業で人との関わりを重点的に指導	毎週木曜の生活指導夕会における児童情報の共有は十分に行うことができた。SCの活用も有効であった。QUの分析も有効であった。自校アンケートやいじめアンケートの実施と結果に対する迅速対応も行うことができた。5学年で道徳科研究授業を行う。	継続して道徳教育の充実に努めてきた。6月～9月、初回の授業観察では全教員の道徳授業の観察と指導講評を行う。講師を招聘し、特別支援教育も視野に入れた道徳の授業を研究する。	◎
学校行事・体験的活動の充実	○学校評価アンケートにおける行事や体験的活動に関する項目で肯定的評価95%以上	・七フレ班活動や児童主体のいじめ防止活動の充実 ・挨拶運動の通年化 ・幼保園児との交流活動 ・全学級が道徳授業を公開	七色フレンズ班活動、挨拶運動、児童によるいじめ防止活動を実施する。オリンピック、パラリンピック教育は都や区の施策に基づき実施。	パフォーマンスデーは音楽発表とし保護者公開を行った。表現力の向上に有効であった。	◎

**重点的な取組事項－3** 体力向上

A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
運動する楽しさや友達と競い合う楽しさを味わわせることを通して、自ら運動に親しむ態度と体力の向上を図る。	○体力テストの総合評価におけるAB評価45%以上、DE評価20%以下	○男子及び3～6年の女子は区都国の平均値と同等もしくはやや上回るが1～2年の女子は下回る。	連合運動会、区の水泳大会では好成績も、運動機会の減少が懸念される。	○

項目	達成基準	具体的な方策			
遊びや運動の日常化	○中休みの外遊び参加児童 90%以上 ○体育朝会の実施	・「中休みは全員外遊び」の徹底と外遊びの安全管理 ・体育朝会を毎月効果的実施 ・「長なわ」「持久走」の強化 ・区スポーツ大会への参加	中休みは3学年ごとの分散遊びを継続する。活性化を図ることができた。持久走記録会に向けての取り組みは実施。区スポーツ大会は水泳に参加。	分散遊びで遊ぶ場所と時間を確保したことは効果的であった。体育的行事には大変意欲的に取り組んだ。	◎
外部、地域、保護者とも連携した体育科の授業改善	○体育好き児童 95%以上 ○授業における 30 分間の主運動時間確保 ○体力向上に関する取り組み肯定的評価 90%以上	・GoogleForm を活用した「児童アンケート」の実施 ・外部連携した体力テストの実施	体育好き児童 95%以上、授業における 30 分間の主運動時間確保、体力向上に関する取り組みについて肯定的評価 90%以上を達成する。	継続して運動や体育が好きな児童は多い傾向が見られる。さらに運動の機会の増大に努める。	○

## 6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

＝学力向上アクションプラン＝

【課題】通過率は、2科 R688.5→R791.1 国語 R690.2→R791.2 算数 R686.8→R791.0 と昨年度と比較し、教科によってばらつきはあるものの全体的には上回る傾向が見られた。授業の充実を図るための授業改善、授業観察とフィードバック、定着度テスト（スマイルテスト）実施方法改善などを継続したが、その要因と考えられる。今後も学年の傾向を分析し、さらなる強化のための具体的な方策（例：読み取り、応用に課題がある→国算を中心に苦手分野に特化したスキルアップ 読書、調べ学習→伝える、拡げるへ）を立て、実践していく。

【対策】日常の授業を通じて「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的な充実を目指す。国語科を中心とし全教科で取り組むた言語活動を軸とし、児童の主体的、対話的な学びの基礎を確立しつつ、教科を横断し活用を推進していく。道徳科の校内研究を通して、指導の個別化・最適化及び協働的な学びの場面の構築を試行し、他教科への派生・定着を図る。（←次年度の研究の柱とし学びの力の伸長を図る。）算数科では、学習意欲を駆り立てる必然性のある課題を設定しつつ、文章の内容を頭の中でイメージ化させ、図化させる活動を取り入れ、解法や思考の具象化・言語化を図る。各個人の課題点を具体的に把握し、共有し、個の能力差に応じた指導法を工夫していく。

＝豊かな心の育成＝

道徳教育及び道徳科を中心に特別支援教育の視点を加味し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的な充実を目指す。引き続き、「あいさつ、返事、靴揃え」＝「当たり前のことを当たり前」をモットーにしつつ、言葉遣いや学習規律等、規範意識の向上にも主眼を置き、保護者、地域も協働し、児童の心の育成を図っていく。令和5年度より積み重ねてきた児童主体のいじめ防止活動を一例とした実践力の育成も推進していく。

＝体力向上＝

日常の体育授業の活性化、体力の向上と充実を図ることに重点を置きつつ、より効果的な取り組み方法を検証していく。50周年事業を通して構築された保護者地域とのつながりを有効活用し、学校と保護者・地域が連携した体力づくりをめざす。

(2) 保護者や地域へのメッセージ \*日頃からの皆様のご協力に感謝の思いを込めて記させていただきます。

○今年度、創立50周年を迎えることができました。保護者、地域の皆様の日頃からの子供たちへの声掛けに改めて感謝申し上げます。子供たちのマナー向上だけでなく、安心・安全な学校づくりにも効果的な取り組みとして、大きな成果を挙げております。本当にありがとうございます。

○東綾瀬スポーツデイ、パフォーマンスデイ、持久走記録会などに、大変多くの方の参観をいただき、感謝申し上げます。今後も学校公開や授業参観、道徳授業地区公開講座、そして子供たちの日常の様子についても、今後より多くの方にご覧いただきたいと思います。

(3) その他（学校教育活動全般について）

学校の様々な活動の様子について発信しているホームページとブログは、11月末現在48726アクセスを記録しました。今後も積極的な情報発信を行い、学校からの情報が保護者や地域にとってより身近なものとしていくよう努力を続けてまいります。